

前橋市関根町周辺における野鳥の種類及び生態調査

時田真友美（群馬県立桐生高等学校 1 年）

【はじめに】小学 5 年生の時に参加した自然史博物館の「ミュージアムスクール」で鳥を探し、羽を拾ったことで鳥類に興味を持った。小学 6 年生から自由研究として関根町周辺で鳥の観察を続けてきた。

しかし、これらは 4 月～8 月までの間で、AM7:30 からの観察であり、1 年を通しての観察ではなく、また観察時間が日の出からの時間が一定ではなかったことが課題であった。

そこで、今回は鳥のゴールデンタイムと言われている日の出前後の時間帯で春から冬まで観察を行うことにした。

【目的】前橋市関根町周辺で

- ①日の出前後でどんな鳥が観察できるかを明らかにする
- ②季節により観察できる鳥に違いがあるのか明らかにする
- ③2019～2021 年の記録と観察できる鳥に違いがあるのか明らかにする(2022 年はシジュウカラの営巣・子育ての観察のみ)
- ④鳥同士の関わり合いを記録する

【研究の方法】

2023 年 6 月～2024 年 2 月の毎月 1、2 回、日の出 30 分前～日の出 30 分後までの間、前橋市関根町にて鳥の観察を行った。

・鳥の姿を目視で確認し、ノートに記録し、写真と動画で記録する

・鳴き声のみであれば、鳴き声をカタカナでノートに記録し、可能であれば動画にて記録する

・2019～2021 年の記録と比較する

観察地について

観察地は、60m 四方の開けたサクラ、ケヤキなどの落葉樹の高木がある公園から西へ 100m ほどの住宅地。観察地の西側には幅 40m の用水路が北から南へ向かって流れている。観察地と用水路の間には用水路に沿って遊歩道があり、サクラ、キンモクセイ、ハナミズキなどが植えられている。用水路のさらに西側には群馬大学荒牧キャンパスがあり、スギなどの高木がある。

【結果】

2019～2021 年までと 2023、2024 年に観察できた鳥を表 1 に示す。

- ・オナガからカワラヒワまでが 2019～2021 年までと今年一年中観察できた鳥。
- ・ツミは今年の 4 月～8 月のみ。

- ・カワウは2021年の4月～8月と今年の冬に観察できた。
- ・カワウからメジロが今年の冬に観察できた。
- ・ツバメは今年観察できなかった。

① 観察期間（6月～2月）を通じて観察できた鳥

オナガ（図1, 2, 3）：5羽以上の集団でいる。最大25羽の集団でいた。2019年には最大5羽で行動していた。日の出30分前に鳴き始める。遊歩道のキンモクセイをねぐらにしている。また、8月20日AM7:00にオナガ7羽がツミを追いかけていた（図3）。

ハシブトガラス（図4）：日の出前20分くらいに荒牧キャンパスから飛んでくる。オナガの次に鳴き始める。つがいで行動していることが多く観察できた。12月～2月にかけて3羽以上で飛んでいる。去年は観察地周辺の鉄塔で営巣していたが、今年は営巣は確認されなかった。

ハシボソガラス（図5）も観察できた。

ヒヨドリ（図6, 7）：ハシブトガラスの次に鳴き始める。6月～1月には1または2羽で観察できた。2月には遊歩道のサクラで9羽程度の集団で観察できた。

カオジロガビチョウ（図8, 9）：観察地のキンモクセイに隔年で営巣している。巣立ち後はキンモクセイをねぐらとして使用している。鳴き始める時刻は一定ではない。現在も3羽で生活している。

カオジロガビチョウの鳴き声は約21種類確認できた。以下に鳴き声をカタカナで示す。

- ・ビヨビヨ ・ピヨピヨ ・ビー ・ビビビヨ ・ピヨ↑ ・クルル ・ビッビッ
- ・ビョクルル ・ピピッピ ・ビビョッ ・ギョルギョル ・ピョピョッ ・ギョルピー
- ・ピピピピピ ・ビッビッジュリ ・チュチュ ・ビャビャ ・ビャビュビビ ・ビャビ
- ・ビビビックルル ・ビョビッビャービャー

スズメ（図10, 11）：つがいで観察できた。日の出直前に鳴き始める。観察地隣接家屋の樋と屋根との間で営巣（6月～8月）していた。巣立ち後はここをねぐらとして使用している。1月には集団でエサ探しをしていた（公園）。

キジバト（図12）：日の出の時刻に観察地周辺の4階建てマンションの屋根またはベランダにいる。

ムクドリ（図13）：5羽以上の集団でいる。AM8:00以降に観察地に出現する。

シジュウカラ(図 14):観察地では観察できなかった。荒牧キャンパスで 3、4 羽観察できた。2022 年に確認できた観察地周辺での営巣も確認できなかった。

カワラヒワ(図 15):1 月には集団でエサ探しをしていた(公園)。

② 6 月～8 月に観察できた鳥

ツミ(図 16):用水路の上の電線で観察できた。観察時間帯以外の日中でも鳴き声が聞こえていた。2022 年までは観察できなかった。最後に観察できたのはオナガに追いかけられていた(8 月 20 日)(図 3)。

③ 11 月～2 月に観察できた鳥

コサギ?(図 17)、アオサギ?(図 18)、カワウ(図 19)、ツグミ(図 20)、ジョウビタキ(図 21)、メジロ(図 22)

【考察】

オナガについて

- ・オナガが増えた要因はよくわからない。群れでねぐらを荒牧キャンパスから遊歩道へ変更したことが予想される。
- ・オナガは日の出 30 分前に鳴き、群れで別の場所に移動することが分かった。どこに移動して、そこで何をしているのかを観察したい。
- ・文献(西)にはオナガは「ツミの巣の近くに営巣し、ツミの防衛行動を利用してハシブトガラスなどから卵や雛の捕食を避けることが知られています。」とあった。しかし、今回はオナガがツミを追いかけている姿が観察された。オナガとツミの関係は観察地周辺では異なることが予想される。

カオジロガビチョウについて

- ・今も 3 羽で生活しているので、ヒナが独り立ちしないで一緒に生活していると考ええる。ヒナであるならば、いつ独り立ちするのか観察を続けたい。
- ・カオジロガビチョウの鳴き声の種類が約 21 種類と、予想していた以上に多様なことが分かった。どのような状況でどのような鳴き声になるのか調査していきたい。

ムクドリについて

- ・ねぐらが観察地周辺の鳥(オナガ、カオジロガビチョウ)は日の出前に鳴き始めるが、ムクドリは日の出後 1 時間ほどに観察地周辺に来る。そのため、ねぐらが他の場所であると考ええる。

シジュウカラについて

・荒牧キャンパスと観察地の間に猛禽類であるツミが現れたことによって、観察地でのシジュウカラが観察できなくなったと考える。

ツミについて

・観察時間帯以外でも鳴き声が聞こえた。よって観察の時間帯が2019～2021年と違うため今年初めて観察できたのではなく、今年から観察地周辺に来るようになったと考える。

・猛禽類であるツミが今年初めて観察されたことで、観察地周辺にねぐらにできる高所がある、エサになる生き物がいる等、ツミが生活できるくらいの環境であると考えられる。

冬鳥について

・今年初めて冬の間の観察を行った。冬には冬だけにみられる鳥が6種類いることが分かった。これらの冬鳥がこのまゝいるのか、別の場所に移るのか観察を続けていきたい。

・日の出前後にしか観察できないのか、日中も観察できるのか確かめてみたい。

ツバメについて

・営巣に適した家の数が少ないことを考える。しかし、今年急に観察できなくなったのでこの理由だけが原因だとは考えづらい。

・日の出前後だったため観察できなかった可能性もあるので、別の時間の観察を加えて、調査していきたい。

観察地の環境について

「身近な鳥の図鑑」より、住宅地や公園にいる鳥として分類される鳥のうちカルガモ、ツバメ、トラツグミを除く8種類の鳥が観察できた。

田んぼや畑にいる鳥として分類される鳥のうち4種類の鳥が観察できた。

雑木林や里山にいる鳥として分類される鳥のうち3種類の鳥が観察できた。

川にいる鳥として分類される鳥のうち2種類が観察できた。

これらから、住宅地ではあるが大学キャンパスがあり、用水路があることから住宅地や公園にいる鳥として分類される鳥以外の鳥も生活できる環境と考える。

【まとめ】

①日の出前後でどんな鳥が観察できるかを明らかにする

17種類の鳥が観察できた。

②季節により観察できる鳥に違いがあるのか明らかにする

10種類の鳥が6月～2月まで観察できた。

1種類(ツミ)が6月～8月まで、6種類の鳥が11月～2月に観察できた。

③2019～2021年の記録と観察できる鳥に違いがあるのか明らかにする

今年はツバメが観察できなかった。

今年はツミが観察できた。

過去の観察とは時間が異なるので比較できるように1日の観察回数を増やしたい。

④鳥同士の関わり合いを記録する

オナガがツミを追いかけている姿が観察できた。オナガとツミの関係は観察地では異なるのかもしれない。

【今後の展望】

- ・3月～5月の観察を行ったことがないので、このまま続けて観察していきたい。
- ・今回は日の出前後の観察であり、2019～2021年までの観察とは時間帯に相違があり、単純比較ができない。今後は同日で日の出前後とAM7:30で調査をし、どのくらい相違があるのか検討したい。
- ・観察できる鳥に変化があるのか観察を続けたい。
- ・カオジロガビチョウがどのような状況でどのような鳴き声になるのか調査していきたい。
- ・オナガがどこに移動して、そこで何をしているのかを観察したい。

【参考文献】

平野伸明（2009）身近な鳥の図鑑、ポプラ社、東京都

西教生（2019）見つけて楽しむ身近な野鳥の観察ガイド、緑書房、東京都

唐沢孝一（2023）都会の鳥の生態学、中央公論新社、東京都

おおたぐろまり（2016）鳥のくらし図鑑、偕成社、東京都

【図・表】

表 1: 2019～2021 年までと 2023、2024 年に観察できた鳥の一覧

	2019	2020	2021	2023	2023	2023	2024
	4月～8月	4月～8月	4月～8月	4月～8月	9月～10月	11月～12月	1月～2月
オナガ	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○
ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○
カオジロガビチョウ	○	○	○	○	○	○	○
スズメ	○	○	○	○	○	○	○
キジバト	○	○	○	○	○	○	○
ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○
カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○
ツミ	×	×	×	○	×	×	×
カワウ	×	×	○	×	×	○	○
アオサギ	×	×	×	×	×	○	○
コサギ	×	×	×	×	×	○	○
ツグミ	×	×	×	×	×	○	○
ジョウビタキ	×	×	×	×	×	○	○
メジロ	×	×	×	×	×	○	○
ツバメ	○	○	○	×	×	×	×



図 1:オナガの集団(6 羽)



図 2:オナガ



図 3:ツミを追いかけるオナガ



図 4:電線にいるハシブトガラス



図 5:電塔にいるハシボソガラス



図 6:サクラにいるヒヨドリ



図 7:サクラにいた 9 羽のヒヨドリ



図 8:子連れ?のカオジロガビチョウ



図 9:電線をブランコのようにしていた営巢中のカオジロガビチョウ



図 10: 営巣中のスズメ



図 11: 公園でエサ探し中のスズメ



図 12: マンションにいるキジバト



図 13:電線にいる 6 羽のムクドリ



図 14:荒牧キャンパスにいたシジュウカラ



図 15:エサ探し中のカワラヒワ



図 16:電線にいたツミ(つがい?)



図 17: コサギ? (1 月～2 月)



図 18: アオサギ? (12 月)



図 19: カワウ (1 月)



図 20:ツグミ(11 月～2 月)



図 21:ジョウビタキ(12 月～2 月)



図 22:メジロ(12 月～2 月)